

# 別紙 施設計画に対する要求項目(例)

■ 対面方式のサウンディング調査を踏まえ、塩田庁舎の改修に係る施設計画に当たって考慮すべき事項について、要求項目(例)として整理しました。実際の発注では、民間提案を実施するエリア(全体・部分)や提案の規模などで、より詳細な調整が必要です。

分類	項目	要求項目(例)
主要機能	文化・芸術・市民活動	限られた部屋の数・面積の中、大人数、少人数とも対応し、稼働率の向上を図ること
		大人数のイベントや会議等に備えた設備を整備すること(ネット環境、放送設備など)
		座学以外多様な活動内容(料理、音楽練習等)も対応し、使いやすい、市民の文化生活を豊かにする場所を目指す
	図書館	本を読む場所だけでなく、蔵書量、雑誌等の入れ替えや電子書籍等の導入、更新などに取り組み、今まで知らない、予想していない知識、情報を常に入手できるワクワクするような場所を目指すこと
		大人利用者が落ち着いて利用可能
		児童・学生等のニーズも満足(読み聞かせ、自習)
		雰囲気の良い、行きたくなる場所を作ること
		子育て世帯でも気軽に利用できること
	子育て	天候に左右されなく外遊び相当な遊べる場所の提供
		活動や遊具が多様で、子どもが行きたくなるような施設を整備すること
相談機能の充実、利用しやすさを向上させること		
社会福祉	アクセス性能、福祉対応空間づくり	
	生き甲斐づくり活動を支える機能を充実させること	
共用部分	休憩スペースの充実、遠慮せず立ち寄れる空間	
コミュニティ機能	主要動線上に配置し、明るい、居心地の良い、人が集まり、交流が自然に生まれる場所を創出すること	
建築計画	機能配置	利用頻度とアクセス性の関係性の配慮し、出入りが頻繁な機能や利用者が多い機能の配置を優先的に行い、大人数利用の利便性・その時の移動の円滑性を確保すること
		共用空間、通路等の幅や形状を調整し動線の回遊性を図ること
		初めての利用者にとっても分かりやすい動線及び平面配置
		階層間移動もしやすく、大人数の移動でも渋滞なく対応
		屋内、屋外空間の繋がりを図り、開放感のあり、人を自然に呼び込む場所を創出すること
		利用者、管理者および物流の動線の関係性を配慮すること

分類	項目	要求項目(例)
建築計画	安全性	建物内災害等が発生した場合の平面方向避難、垂直方向避難の対応
		こども、高齢者、体の不自由な利用者などにも使いやすい建具・設備・動線
		利用者の死角の少ない、視認性の良い、防犯性の高い空間
	利便性	機能間の関係性を考慮し、関係性・相乗効果のある機能や場所を共用できる機能の連携を図ること
		利用人数に対応する設備の数と面積を確保すること(トイレ、キッチン、給湯室、ロビーなど)
		年齢、性別、体の不自由を問わずだれでも利用しやすく、ユニバーサルデザイン化された空間・設備を整備すること
		各空間の想定利用者と利用機能を踏まえ、独立性を求められる機能とアクセス性を優先すべき機能を類型化し配置すること
	環境配慮	利用状況による抑制可能な設備計画
		部屋の用途に合わせた配置で、自然光を積極的に活用
	防災対策	避難所として利用可能、特に風水被害時の周辺地域からの避難を想定し、収容人数に適した面積を整備すること
長期間滞在に備え、備蓄を充実、不便が感じられない日案施設を整備すること		
敷地計画	機能配置	市民から観光客まで集まるようなにぎわい機能(イベントなど)を提供する場所を優先に配置し、十分な面積を確保すること
		建物内の行政機能、商業・賑わい機能と屋外のイベント・休憩・遊び機能の連携、相乗効果を意識し、建物と屋外スペースの接点を創出すること
		複合施設の利用を見据え、適切な駐車スペースを設置。平常時とイベント開催等特殊時期の駐車需要を想定するが、イベントのための駐車スペースを平常時の利活用も考慮すること
		主要機能を結ぶ歩行者空間を向上し、ランドスケープ設計や屋外家具等を活用して快適性を向上し、動線をわかりやすくように整備すること
		道路から敷地の奥までの視認性を確保すること
		植栽、地形や屋外家具などを活かし、気軽に休憩できる場所を確保すること
歩行者と車の動線を極力分離させ、車両の動線を敷地の中心部から排除し、人を中心とした都市空間を創出すること		